

地域を創る 四国を拓く

22

「都会でも田舎でもない、まち暮らしを始めませんか」。松山市中心部まで車で20分あまりに位置する伊予市の市街地、郡中地区。「田舎過ぎず都会過ぎず」と売り出し、いち早く移住促進を中心とした活動に励んでいるのが、任意団体「郡中まち元気推進協議会」だ。

地元の特産品などを販売する手づくり交流市場「町家」を運営する市第三セクター「まちづくり郡中」内の組織として、2010年2月に発足。町中のマップの作製をはじめ、住民らの交流施設「郡中まち元気サロン」来良夢(らむむ)の運営、ツアーガイド養成などを手掛ける中で、移住促進には12年(ころ)から本格的

郡中まち元気推進協議会 (伊予市)



移住促進などに励んでいる郡中まち元気推進協議会のメンバー

中高年移住知恵絞る

に着手した。
「個人的には若い人を呼び込んだ方がいいと思っていたんですが…」と会員の若松一心さん

ある市内の農産品や海産物などを取り扱う商店街があるほか、市役所や



【XET】2017年10月1日時点の伊予市の人口3万6080人のうち、郡中地区は4割超の1万6093人。移住などを通して郡中地区を活性化させることで市全体への波及効果を見据える。市内には双海、中山の旧2町にも移住促進を図る住民団体があるほか、17年6月に市の委託で開設された市移住サポートセンター「いよりん」とも連携を図っている。問い合わせはまちづくり郡中へ電話089(946)7245。

胸を張る。若松さんも「高齢者が来ると、サポートする家族や親族も訪れるようになった」と振り返る。今後の課題は活用できる空き家の確保。移住前に一定期間、仮住まいができる「お試し住宅」を

金融機関なども集中し、歯科医を含めた個人病院は計15軒と充実している。

さらにJR予讃線伊予市駅と、伊予鉄郡中駅、郡中港駅もかたまって立地。松山空港までも車で約20分と交通の便が良い。メンバーは「歩きだけで十分生活できる」と

移住者に求める条件はただ一つ。「せっかくだから地域とのつながりを持って」。メンバーは「移住者の中には、無償で定期的に英会話教室を開くなど地域貢献してくれている人が多い。もともとこの住民と好循環を生むことが本場に大事」と強調している。

ほかに大都市圏である移住フェアに積極的に参加するなど会員である6人のガイドの活躍もあり、ここ3年間で首都圏

〈和田亮〉
〈随時掲載します〉